



## イラク：国会の正副議長選出

7月15日、イラクの国会は以下の通り正副議長を選出した。議長は、これまでの慣行どおりスンナ派アラブから選出された。

議長：サリーム・ジュブーリー（イスラーム党）

第1副議長：ハイダル・イバーディー（ダアワ党）

第2副議長：アラーム・シャイフ・ムハンマド（クルド人。変革運動）

ジュブーリー議長は、次回の本会議を7月23日に開催すると発表した。

### 考察

イラクの国会は、4月30日に投票が行われ、6月上旬には前の国会から職務を引き継ぐ予定であった。しかし、「イスラーム国」の攻勢などの治安情勢の悪化と、大統領、首相、国会議長の人事をめぐる政争のため活動は滞り、15日の本会議でも辛うじて正副議長を選出するにとどまった。イラクの憲法によると、第1回本会議（7月1日）開催後30日以内の大統領選出→大統領が最大の院内会派の代表に組閣を指示→指示から15日以内に組閣、などの国政の責任者の人事選出日程が定められている。しかし、イラクの国会は、人事をめぐる諸政治勢力の抗争などから、いったんは議長選出などの日程を8月半ばまで先送りしようとしたなど、現在の政治・治安情勢の当事者としての責任感に欠ける対応に終始している。

その上、今後の政治日程を停滞・頓挫させうる要素も複数ある。現在の治安情勢の悪化に乗じて制圧地域を拡大、独立を公言するようになっているクルド勢力が、クルド人を選出することが慣行となっている大統領の選出に協力するか否かがその一例である。さらに、選挙で第一党となった「法治国家連合」の代表はマーリキー首相であり、首相続投を目指すマーリキー首相と「拳国一致」を唱えて同首相の交替を図るイラクの諸政治勢力や、アメリカなどの諸外国との間の対立により、政治体制そのものの機能不全が長期化する恐れすらある。現在のイラクの政治勢力の動きや今後の政治日程を見る限り、イラクの政界から現状打開のための積極的な働きかけが出ることは当面期待できない。

（高岡上席研究員）

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799